

天の叢雲の剣登祥の地として名高い簸の川上、稲田の里に古くより鎮座まします稲田神社はヤマタノオロチ退治の素盞鳴尊の妃である稲田姫命を主祭神に地元崇敬をあつめてまいりました。昭和七年に特別崇敬者小林徳一郎氏が本願主で遷宮し、爾来、永久社司千家家と仁多郡十ヶ村長の支援を賜り護持運営に努めてまいりました。その後、昭和四十年に拝殿の修復事業、平成三年には本殿屋根の仮修復を行ったものの仁多郡内における神社本庁管轄の包括神社三十四社の内、唯一氏子のいない崇敬神社として歩んできたため、長年の風雪に激しい傷みを目にしながらも、その修復に向け主体となる活動母体がなく、手付かずで今日を迎えたところでは、

かかる状況に、町内外多数の皆様から信仰の対象としてはもとより、文化財的価値、観光的価値を活かすようにとのご助言をいただきました。地元においてもこうした声に向かうべく、平成十七年三月に神社修復と周辺環境整備を目的として稲田神社保存会を発足し活動をしてまいりましたが、思いのほか修復規模が大きく、費用もかさむ状況に鑑み、新たに稲田神社奉賛会を設立し地域に縁(ゆかり)の方を始め広く崇敬者並びに篤志家の格別のご協賛とご援助を仰ぎ修復活動に取り組むことに致しました。

つきましては、世情厳しい折柄まことに恐縮に存じますが、本趣旨をご理解たまわり、格別のご協賛をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

平成十九年十月

稲田神社奉賛会

名誉会長	多根弘師
会 長	糸原徳康
副会長	大谷隆壽
副会長	堀江健治
副会長	田中和夫
稲田神社	
名誉宮司	千家尊祐
宮 司	木山久利



〔沿革〕

年代不詳であるが、当地は稲田姫命が誕生し給いし地にして、その傍に産湯の池と称する小池があり湧水枯ることなく現存している。亦の名を稲田明神という。近き所に姫塚と言う地名あり。御祭神(稲田姫命)誕生の時臍の緒を切りし篠竹があり、常時枯れることなく実をつける(笹の宮)稲田神社は古典により「稲田宮」とあり素盞鳴尊が大蛇退治のち后となり安産の神、縁結びの神として、国主の崇敬厚く、特別崇敬者小林徳一郎氏が稲田神社の御神徳を称え、寄進して参道と境内敷地を広げて荘厳なご社殿を建造して、昭和七年十一月、三日間に亘って、正遷座祭の式典が行われた。〔稲田神社御由緒記より〕